

北九州企業調べ

企業名	株式会社 KADOKAWA	
本社所在地	東京都千代田区富士見二丁目13番3号	
上場	区分(上場・非上場)	上場
	上場場所(証券市場名)	東証1部
業種(大分類・中分類)	出版業	
事業内容	出版事業、映像事業、版權事業、デジタルコンテンツ事業など。	
代表者名	松原眞樹	
企業規模	資本金額	206億円
	従業員数(男女別)	単独：1585名 連結：4492名
	支店・営業所数	事業所が15カ所。
	売上額	2046億円
純利益(金額)	80億円	
資産・負債状況(金額)	総資産：2429億円	負債：655億円
設立目的・理念	新しさを極め続けられれば変わらないものが見えてくる。変化を恐れずに挑戦し続ける心が KADOKAWA のスピリットです。KADOKAWA の経営理念を「不易流行」とし、その志を未来につなげます。	
技術整備	特許技術の有無・内容	なし
	ISO 取得の有無・内容	なし
	独特な営業方法有無・内容	出版業だけでなく、映画、アニメ、ゲームなどを世界に広く展開している
環境整備	職場環境整備の有無・内容	全社でサテライトワーク (サテライトオフィス勤務、在宅勤務含む) を導入。 カウンセリングあり。
	CSRの有無・内容	所沢市と共同で「COOL JAPAN FOREST 構想」を推進。 基幹事業である書籍事業の製造・物流改革と、日本のポップカルチャーの発信の両方を実現する複合施設「ところざわサクラタウン」の建設を進めている。
グループ企業の有無・名称	連結子会社が国内に33社、国外に17社。関連会社が国内に12社、国外に4社。	
取引先銀行	みずほ銀行、三井住友銀行、三菱UFJ銀行、りそな銀行、三井住友信託銀行、三菱UFJ信託銀行	
企業沿革の概略 (設立年から年代別の規模拡大状況) ※簡単に		

1945年設立。1949年「角川文庫」創刊。1976年角川文化振興財団設立。2003年角川ホールディングス設立。出版を主事業とする。
2006年角川ホールディングスから角川グループホールディングスに社名変更。
2013年角川グループホールディングスから株式会社KADOKAWAに商号変更。

社内制度(賃金、教育研修、福利厚生)※調べられた限りで

月給 23万円 通勤手当 時間外勤務手当 賞与年2回 1～2か月の集合研修 育児休業 育児所あり

新規採用情報 ※2021年度の情報(職種や人数等)

総合職として全職種一括採用。2020年は43名採用。

社員の口コミ評価(各項目の星数で表示) ※転職会議等のリーダーチャート参照

※項目…企業の成長性・将来性、教育研修制度、福利厚生、入社難易度、仕事のやりがい、給与水準、企業の安定性

企業の成長性・将来性：3 教育研修制度：2.4 福利厚生：2.6 入社難易度：3.6 仕事のやりがい：4 給与水準：2.8

企業の安定性：3.2 企業の理念と浸透性：3.2

感想(調べた内容にもとづく評価)

(収益性・成長性)(安定性)(独創性)(独立性)(経営拡張・縮小等の適応性)の観点から評価

大手出版社だが、出版業界の不況に負けないように様々な事業を展開しており、上場企業であるから安定性や将来性があると感じた。
HPを見る限りでは福利厚生がかなり整備されていると感じたが、評価が意外と低いのは非正規社員には福利厚生がないという理由だっ
た。仕事のやりがいが4という評価で、その内訳はほとんどが編集者だったので、編集者を目指す人にとっては向いている企業だといえ
る。「とろろざわさわクワウン」は大規模な複合施設であるため、今後どのように業績に関係してくるかが気になる。

北九州企業調べ

企業名	株式会社 新潮社	
本社所在地	東京都新宿区矢来町7 1	
上場	区分(上場・非上場)	非上場
	上場場所(証券市場名)	
業種(大分類・中分類)	出版業	
事業内容	書籍、雑誌などの出版・販売・配信。その他 Web 事業、版權部門など。	
代表者名	佐藤隆信	
企業規模	資本金額	1 億 5000 万円
	従業員数(男女別)	352 名 (男性 195 名；女性 157 名)
	支店・営業所数	なし
	売上額	200 億円 (転職会議より)
純利益(金額)	データなし	
資産・負債状況(金額)	データなし	
設立目的・理念	特に記載なし	
技術整備	特許技術の有無・内容	なし
	ISO 取得の有無・内容	なし
	独特な営業方法有無・内容	特になし
環境整備	職場環境整備の有無・内容	食堂あり
	CSRの有無・内容	複合施設「la kagu(ラカグ)」は神楽坂の地域振興に貢献
グループ企業の有無・名称	なし	
取引先銀行	不明	
<p>企業沿革の概略 (設立年から年代別の規模拡大状況) ※簡単に 1896 年前身となる「新声社」を創立。1903 年資金繰りに窮し新声社を譲渡。1904 年新たに「新潮社」を設立。1914 年『新潮文庫』を創刊。1956 年週刊誌『週刊新潮』を創刊。2003 年『新潮新書』を創刊。2014 年『新潮文庫 nex』を刊行。</p>		
<p>社内制度(賃金、教育研修、福利厚生)※調べられた限りで 基本給：19 万円+超過勤務手当+社会保険手当 昇給：年 1 回 賞与：年 2 回</p>		

<p>保養所あり、社員食堂あり、産前産後休暇、育児休業制度、育児休業制度、時短勤務制度、介護休業制度 新入社員研修あり、新入社員トレーナー制度あり</p>
<p>新規採用情報 ※2021年度の情報(職種や人数等)</p>
<p>【総合職】編集、営業、広告、宣伝、総務・経理 若干名 (受付終了後のため詳しいデータなし) 【一般事務職】編集部、営業部、総務・経理の事務。受付。1～5名。</p>
<p>社員の口コミ評価(各項目の星数で表示) ※転職会議等のリーダーチャート参照</p>
<p>※項目…企業の成長性・将来性、教育研修制度、福利厚生、入社難易度、仕事のやりがい、給与水準、企業の安定性 企業の成長性・将来性:2.6 教育研修制度:2.5 福利厚生:3.3 入社難易度:3.6 仕事のやりがい:3.6 給与水準:3.6 企業の安定性:3 企業の理念と浸透性:3.2</p>
<p>感想(調べた内容にもとづく評価)</p>
<p>(収益性・成長性)(安定性)(独創性)(独立性)(経営拡張・縮小等の適応性)の観点から評価</p> <p>情報が少ないので評価が難しいが、口コミにおいては3以上の項目が多かったもので社内制度は整っているという印象。出版業界においてはよく目にする歴史ある出版社だが、文芸と週刊誌からの脱皮がうまくいっていないという口コミや将来性を心配する口コミもあり、成長性は低いと感じる。また、平均年齢が45歳と高めと若手の活躍が不透明だった。新潮文庫nexの刊行によりライトノベルやその映像化にも力を入れているようだが、そういった新規事業の業績も気になるところだ。</p>